



四角い石灯籠 旧小津家にデビュー

夏の暑さを吹き飛ばす勢いで、8月旧小津家の中庭に灯籠が塀を飛び越えやってきた。クレーンで持ち上げて搬入。大がかりなご来場だ。

旧小津家には新しいもののように思えるが、実は小津本家から運び込まれたものだ。

見た目には四角くて単純なつくりなのだが、その製作年を見ると観応2（1351）年の南北朝時代。670年になろうとしている。四角い石灯籠は古く、出来栄は春日大社にある同型のものに次いで2番目の出来栄と、灯籠を解説する本に登場している。大和の産と考えられ、松阪に運ばれ風雪に耐えて

きた一品。旧小津家に添えられた大きな文化財だと云える。

旧小津家にお出かけの際は、ごゆっくりとごらんください。風雨に耐えた獅子・鹿・牡丹が見つかるはずですよ。



秋の旧長谷川家庭園

あるじは国にのみ居てあそびをり、
うはばはさしもあらで、
うちうちはいたくゆたかにおごりて
わたる。

満天星（どうだん）躑躅（つづじ）や楓（かえで）の紅葉（こうよう）に包まれて、秋の旧長谷川家ではこの心境を満喫していただけます。



この秋の展示はここがみどころ！

◆長谷川家の「わびさび」

旧長谷川治郎兵衛家 9月30日～12月20日

「わびさび」は日本の美意識のひとつとして、茶の湯や香道、俳諧で見受けられる言葉です。長谷川家には、裏千家家元との交流を示す書状などが数多くのこされており、その親交ぶりを窺うことができます。

また、道具では、裏千家歴代家元が意匠などを職人に指示して作らせた「好み」のものがあり、その中には家元の花押が直書されている貴重なものも見られます。さらには、文化文政期から天保期を中心として南家4代武右衛門定盈（号：甫由）や西家5代六郎次元満（号：夜白）などが俳人として活動し、多くの句を残しました。

文芸活動が盛んに行なわれた長谷川家にのこる品々を通じて「わびさび」の世界を紹介します。

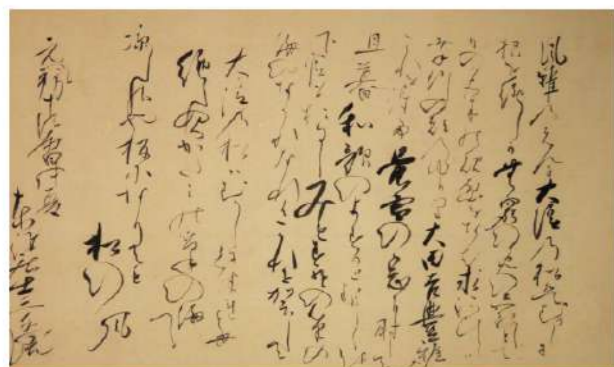


長谷川家利休翁像

◆商家のたのしみ

旧小津清左衛門家 10月14日～1月11日

国学者本居宣長は随筆『玉勝間』の中で、松阪商人は江戸店の経営を奉公人に任せ、主人は「国にのみ居てあそびおり」と記しています。江戸時代の松阪の豪商たちは、藩から大年寄（町役人の筆頭）や御為替組御用などの責務を負わせられながらも、余暇には趣味と教養を兼ねた文芸を極め、松阪特有の異彩を放つ「商人文化」の担い手となりました。国学者本居宣長・俳人大淀三千風・茶人藤田適斎・戯作者樸亭琴魚・篤志家三井高蔭・好事家小津久足・絵師殿村小霞らはいずれも松阪を代表する豪商でした。俳諧・和歌・茶の湯・国学・香道・華道などの資料を通じて、松阪商人のたのしみをご紹介します。



大淀三千風筆「大淀の松讃歌」



板垣退助書簡

◆原田二郎と土居光華

原田二郎旧宅 8月19日～12月6日

松阪の同心町（現・殿町）は、江戸時代には同心クラスの武士の居住地でした。本展では、同心町に住み、近代の松阪を代表する経済人・原田二郎（1849-1930）と政治家・土居光華（1847-1918）を紹介します。板垣退助や桂太郎といった近代を代表する政治家が光華に送った書簡や本居宣長の山室山奥墓の保存活動に関する資料を展示しています。展示を通して松阪の発展に大きく尽力をした両人を知っていただければ幸いです。

火用心札の木版印刷体験

11月1日（日）午前10:00から約1時間。
旧長谷川治郎兵衛家の離れ屋敷で行います。

- ・定員 20名（申込順）。
- ・参加費 500円（入館料込み）。
- ・内容 旧長谷川治郎兵衛家所有の「火用心」版木のレプリカを使用して、火用心札の印刷体験
- ・申込み 10月10日（土）～10月24日（土）
旧長谷川家まで



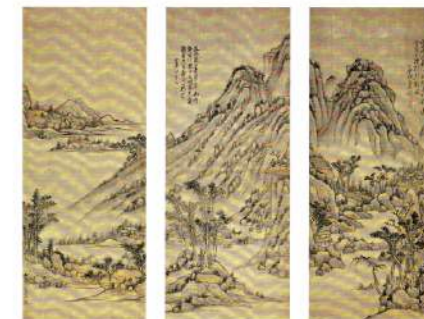
伊孚九「絹本淡彩離合山水図」が展示されます

伊孚九（いふきゅう）は、中国 清代中期の画家で江戸後期の画壇に大きな影響を与えました。長崎には度々来日し、山水画に長じ南宗画の画風を我が国に伝えました。その作品は当時の知識人に高く評価され、伊孚九の作品群の中でも本図は第一の力作とされています。

この国重要文化財「絹本淡彩離合山水図」は、平成31年2月、長谷川治郎兵衛家14代当主から松阪市に寄贈されました。山水画の掛け軸3幅からなり、それぞれが独立した作品です。しかし三枚の掛け軸で一つの絵の世界が出来上がっています。

松阪歴史文化舎では、そのレプリカを作成し、11月3日（文化の日）から12月6日（日）までの間、旧長谷川治郎兵衛家の大正座敷にて旧家本来の姿で床の間にかけ展示します。庭の景色に溶け込む、軸の荘厳さを味わっていただけます。

また、オリジナルは松阪市文化財センターはにわ館第2展示室で10月24日（土）から12月6日（日）まで一般公開します。



藍のたたき染めをしました



8月9日、昨年に引き続き松阪もめん手織り伝承グループ「ゆうづる会」の指導のもと旧長谷川治郎兵衛家ワークショップ-「藍のたたき染め体験」を開催しました。小学生から大人まで25名の参加がありました。今回は、コロナウィルスの流行で生活の必需品となったマスクに藍の葉で直接たたき染めを行いステキなオリジナルマスクが仕上がりました。

エピソード

◆旧長谷川治郎兵衛家

魚町の長谷川家と殿町の庭

長谷川家の土地は背割り下水で魚町・殿町と二つの町名にわかれてる。江戸時代、長谷川家は魚町にあった。殿町は武家用で商用地ではなかったから。今でいう都市計画の線引きは氏郷が約430年前に作った。江戸の儲けで殿町を手に入れ、先々商用地とする予定だったのか。そのおかげで優雅な形のまま残された。



◆旧小津清左衛門家

小津家の仕事は超現代風

和紙問屋だったんですか。木綿じゃなかったんだ。という反応をお客様から頂く。江戸を席捲した松阪もめんは、小津家でも商っていたが主流でなかった。商法は松阪商人の勢州住まい。松阪に住んで、江戸の店を管理運営、テレワークしていた。そう言う、お客さんは今とつながる歴史を頭の中に残してくれてるかなあ。



◆原田二郎旧宅

松坂城のお堀跡

松坂城跡から御城番屋敷を通過して当時のお城裏門・搦手（からめて）門を出た同心町通りの一角に原田二郎旧宅があります。旧宅の庭の半分近くが当時松坂城のお堀でした。現在の神道川に沿って幅18m・深さ9mのお堀が松坂城を取り囲み守っていたのです。ぜひ由緒ある旧宅を背にお堀跡を望みながら、どうぞいしえの世界に思いを馳せてみてください。



疫病退散の松阪 いまは昔

蘇民将来の将来

いつもの年のように今年も蘇民将来の疫病退散のしめ縄を飾ったのですが、いまだにご利益が現れない。行いが悪いのか、正月参りの賽銭が足りなかったのか。目に見えない新型コロナウィルスへの対処生活を強（し）いられる。いつまで続くのかという心配はやめ、まずはワクチンの神様の誕生を祈ることにしよう。さて、ご先祖の「ハヤリやまい」への対応はどんなことをしていたんだろうか調べてみた。

霊験あらたかでもないけれども、現実的に我々に見える形、寄付で動いてくれたのは原田二郎氏の積善会。大正10年から病院・療養所だけで24カ所に寄付を続けている。数年間病院の寄付依頼にこたえている時代もあった。済生会病院松阪支院には昭和11年の記録が残っている。結核・癩（らい）の名が入った病院も数カ所見ることができる。

松阪関係のハヤリやまいを松阪市史で拾う。一番古いのは866（貞観8）年6月1日伊勢国飢疫（きえき）、賑給（しんごう・しんきゅう）する。と書かれている。どんなやまいかは分からないが日本三大実録に出てくる。これに符合するのか、7月4日多気・度会両神郡の百姓飢饉、賑給すると記載されている。賑給は「持続化給付金」と理解すると今の新型コロナの世界に重なるように思える。

飛んでトンデ1878年8月22日松坂新町のコレラ患者死亡。1882年コレラ大流行。1886年7月コレラ流行、松坂警察署内に検疫所設置、矢川村交通遮断、本町に避病所新築。この年のこの地区のコレラ患者119人／死者数93人。致死率が半端じゃない。コレラは記事だけを見ても8年間治まっていない。知りたいことは歴史の中に。そこから学べるものはたくさんある。

つぎに松阪商人のやまい対策を見て見よう。

商人のはやり病い対策

店員の健康に気を遣うのは、長谷川でも小津でも昔から重要なことだ。どこかに書き残されているはずだ。探してみたい。

長谷川家では保健衛生に関してこんな記述がある。元文2年掟法帳「病氣之節者互二氣を付介抱致可申事」。1858（安政5）年「改革定法録」には「見世若者不快二而医師二懸り薬用致度候ハバ・・・」（超意識 医者にかかった後は富山の置き薬ぐらいで処置を）ということらしい。

小津家創業頃に創った7か条からなる「定」がある。最後に「体の養生は互に気を付け、仕事は協力し合ってこなせ」と書かれている。

御用留の小津家の文書の中には一般の配布した養生書というのがある。それは1862（文久2）年8月には麻疹流行養生書、そして驚くことに同じ月ころり（コレラ）治療書も配布されている。黒船来航が1853年だから、これも国際化の洗礼なのかもしれない。

流行病と国際化は切り離せないものようだ。すると、一番初めにさかのぼろう。866年この疫病は海外から持ち込まれたものだと考えられる。どんな病気かは不明だが、

蘇民将来のあとに続いたものが持ち込んだのかもしれない。なんて空想してしまうのである。



上部線路沿いに伝染病院はありました（大正9年地図）

年間パスポートご案内

松阪歴史文化舎では右記記載三館の管理を行っています。各館では年間3、4回の展示替えをしております。

新展示公開ごとに、また、移り変わる季節ごとに旧家の庭を楽しんでいただけるよう、お得な有料二館用年間パスポートを作成しております。

有料施設 旧長谷川家 旧小津家用年間パスポート 1,000円/年（原田旧宅は無料で利用いただけます）



長谷川



小津

発行 NPO法人松阪歴史文化舎

〒515-0082 三重県松阪市魚町1653

Tel 0598-21-8600

E-mail info@rekishibunkasha.onmicrosoft.com



旧長谷川家、旧小津家、原田旧宅三館共同案内

【開館時間】 9：00～17：00

（16：30までにご入館ください）

休館日／月曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始

【施設連絡先】

旧長谷川治郎兵衛家

Phone：0598-21-8600

旧小津清左衛門家

Phone：0598-21-4331

原田二郎旧宅

Phone：0598-23-1656

